

春風秋霜 6月号

平成29年6月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 うれしい出会い

教師をしていて良かったことは多いですが、心配をしていた子どもの成長した姿を見ることもその一つです。最近、池谷学校教育課長から、以前勤めていた中学校の生徒がガソリンスタンドで働いていると聞き、そのスタンドで給油をしてきました。

中学校時代には力づくの対応をしたこともある生徒でしたが、落ち着いた笑顔での対応に成長を実感しました。親しく話しかけてくる様子に、厳しくも繋がる関係を大切にしてきたことが、今の自然体で話ができる関係になっていると思いました。

問題行動を起こしたり、課題を抱えたりする子どもたちでも、誰か繋がる人がいると立ち直りの後押しができると思います。

2 全国都市教育長研修会に参加して

島田市では、夢育・地育の推進を行っていますが、多くの教育委員会が地域の教育力や地域資源を学校教育に取り入れることにより、地域愛の育成を図ろうとしていました。島田市の地育と同じ方向だと思えます。

学校の多忙化を考えると、教職員に大きな負担をかけずに、地域の教育力を活用するためには、コーディネーターの存在が大きいことも共通した認識でした。今年度の島田市の教育方針でも、学校と地域との連携を担う市民を学校評議員に参加させることを明記しています。この市民がコーディネーターに育つことを願っています。教務主任研修会でも説明しましたが、コーディネーターの存在は、コミュニティースクールを導入する際の成否にも関係します。

地域人材の活用は、開かれた教育課程やカリキュラム・マネジメントにも繋がります。地域の人材や資源を上手に活用する方法を、各学校で研究してみたいと思います。

この会で、奈良市立一条高校 藤原和博校長による「10年後、君の仕事はあるか」という講演がありました。藤原氏は、AIの急速な発達の中で生きる子どもたちには、知識や技能を獲得する情報処理力ではなく、思考・判断・表現といった情報編集力を養わなくてはならないと強調していました。AIの得意とする正解を求める思考ではなく、正解のない『納得解』を見つける力で、例えとして、ジグソーパズルを完成させる力より、レゴで作品を作り上げる力だと言われました。

また、こんな話題もありました。皆さんは、黒いまな板を使ったことはありますか。私は、衛生的観点からまな板は白しかないと思っていましたが、黒いまな板は白い食品が見やすいため、調理の作業効率をあげるそうです。黒いまな板の開発は、常識を疑うことのない私にはない発想です。このような発想こそ、人間でなくてはできないことだと氏は言いました。

アメリカには、自学で獲得したプログラミングで年間数千万円の収入を得ている中高生がいるそうです。プログラマーなどは、10年後も残る仕事です。時代が新しい教育観を求めていることを意識し、授業改善をすることが喫緊の課題です。

3 学習の定着率について

家を片付けていたら、鳴門教育大学の久我直人教授の講演資料が出てきました。その中に、学習方法と定着率のデータがありました。

この結果は、どんな内容を誰が扱うかによっても変わると思うので、方法だけ取り入れても同じ結果が出るとは限りません。しかし、トークとチョークの授業は、定着効果が低いことは事実です。また、「主体的・対話的で深い学び」と重なることも確かです。

講義	5%
グループ討議	50%
体験	75%
人に教える	90%

学習方法と定着率

4 不登校対応について

5月23日発行の内外教育に、東京理科大学の研究が紹介されていました。その中では、不登校傾向にある学生は、初年度の6月の第1週から出席状況が急激に悪くなると書かれていました。大学生と小中学生では違うと思いますが、初年度と6月の第1週というのは、留意したほうが良い情報だと思います。

不登校対策はどの学校でも課題になっていますが、「早期対応」や「チーム学校」で成果を上げている学校も多くあります。初期段階の家庭訪問が功を奏する場合も多いという報告もあります。手遅れが重症化するケースは多いので、早めのケース会議で、必要なかわり方を共有することが大切です。

5 こんな花を見つけました

市民病院の西側の山の中できれいな紫の花を見ました。桐の花です。大井川の相賀ランドゴルフ場の近くではジャケツイバラの豪華な黄色の花が咲いていました。公園など栽培されている花だけでなく、自然の中でも美しい花はたくさんあります。心にゆとりをもつと様々な花が見つかると思います。(残念ながら今年は咲き終わりました。来年を楽しみに。)



肘かけ椅子

五條 早規子 教育委員長

「鯉のぼり」

今年も『こどもの日』に、行楽地で鯉のぼりを連ねて揚げたというニュースが流れた。一方、街で鯉のぼりを目にするのはぐんと減った。

私の家は、節句を月遅れで祝う。この辺りでは、まだまだそういう家もあるようだ。5月5日をかなり過ぎた頃、歩いていて鯉のぼりを見つけた。2階のベランダから、空に向けて揚げてあった。ああ、この家には男の子がいるんだな、と鯉のぼりを見つけたうれしさで、「♪～い～ら～か～の～♪」と口ずさんでみた。

歌ってみるとなんとも難しい言葉が並ぶが、幼い頃、祖母が『唱歌』と呼んで歌ってくれた歌だ。祖母の『唱歌』は数多く、季節の歌だけでなく物語風の歌もあった。これらは、5番6番と長く続き、私は昔話を聴いているようで大好きだった。祖母のそばで、ゆったりと心地よい時を過ごしたのだと思う。

今、孫を抱き歌うのが祖母の『唱歌』で、自然に口から出てくるから驚く。長女が「お母さんのまねをして歌うと、この子は不思議に寝ちゃうんだよ。」と言っていた。歌の上手下手ではなく、抱っこに子守唄が心地よく、安心して眠ることができるようだ。

子どもは、抱っこや歌に限らず、何らかの安らぎのひとつを何度も何度も味わいながら育っていくのだろう。大人の私は、月遅れの鯉のぼりを見つけて喜び、「♪～ふ～ね～を～も～の～ま～ん～♪」あら？船をも飲み込むほどの口ということか、と今更ながらに納得し、スキップしたくなるほどの気分で歩いた。